がんばれ!! サラリーマン

扁桃炎　新しい治療法・ラジオ波凝固術

食事とれぬほど

口蓋扁桃はのどの左右にあるリンパ組織。この口蓋扁桃におきる炎症を、一般に「扁桃炎」という。通常の細菌感染による急性扁桃炎であれば、抗生物質や消炎鎮痛剤などの数日間の内服で治るが、抗生物質で効果がなかったり、不十分な治療でこじれると、炎症が扁桃の被膜を越えて周囲に広がることになる。この状態を「扁桃周囲炎」と言い、病状がさらに進展すると、扁桃の被膜の外に膿がたまって腫れあがり、「扁桃周囲膿瘍」となる。

これは通常は片側だけに起きるという特徴があり、「カゼをひいた後などに片方の咽が痛くなり、食事や水さえものどを通らなくなっているときは扁桃周囲膿瘍の可能性がある」と語るのは、東京・自由が丘にある笠井耳鼻咽喉科クリニック自由が丘診療室の笠井創院長＝写真。

扁桃周囲膿瘍の治療としては、たまっている膿を吸出し、咽の腫れている部分を切開して膿を出す手術が行われる。場合によっては入院もありうるというこの疾患。日頃から急性扁桃炎を繰り返す人は慢性化の危険性が指摘される。

慢性扁桃炎は、咽の異物感、扁桃がつねに赤く感覚的にスッキリしない―などの症状の他、だるさや微熱、風邪をひきやすい―などの症状が現れる。

「扁桃に膿栓がついて口の中が気持ち悪く、口臭がするなどの症状がある。睡眠不足や過度の飲酒、過労やストレスを避けるなど日常生活での注意が必要」（笠井院長）。

炎症を繰り返す場合には口蓋扁桃の摘出手術がとられるケースがある。笠井院長のクリニックでは、最近開発された「ラジオ波凝固治療」が導入されており、日帰り手術が可能となっている。同治療では、扁桃肥大、慢性扁桃炎、イビキ改善、各種鼻炎など、多くの耳鼻咽喉科領域の手術に対応可能だ。ラジオ波凝固による口蓋扁桃切除手術では、専用の治療装置に付属する二つの電極端子を使い、片方は扁桃組織内に刺して内部から、もう片方は扁桃表面からラジオ波を流して、組織そのものを凝固・切除していく。

2つの電極端子を使って日帰りでイビキ改善などにも対応

レーザーに代わる期待

「ラジオ波凝固術は、両側の扁桃を一度に切除するのではなく、片側ずつ間隔をおいて治療する。治療した側の扁桃の縮小を確認してから反対側を治療する必要があり焦りは禁物」（笠井院長）。

術後の痛みは個人差があるが、「扁桃炎を起こしたときとほぼ同じ」と笠井院長。術後一カ月程度でほぼ全快（その間通院の必要なし）するこの治療法。レーザー手術に代わる新しい治療法として期待されている。

（長田昭二）